

UNISYS

2016年3月期 第1四半期  
決算の概要

2015年7月31日  
日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

## 2016年3月期 第1四半期 連結経営成績

Foresight in sight

システムサービスを中心にサービス売上が伸長  
販管費の削減も進み営業利益は前期比65%増

(単位:億円)

	1Q(4-6月)		前年同期比 増減	
	2016/3期	2015/3期		
売上高	524	508	+16	+3.2%
売上総利益	126	131	▲6	▲4.5%
販管費	▲118	▲127	+9	+6.9%
営業利益	7	4	+3	+65.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	4	+4	+104.3%
受注高	524	495	+29	+5.8%
受注残高	2,102	2,146	▲44	▲2.1%

### <1Q決算のポイント>

- 売上高  
サービス売上の伸長により増収
- 営業利益  
売上総利益は減少するも販管費削減により増益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益  
有価証券売却益も奇与し大幅増益
- 受注高・受注残高  
製造、電力・サービスなど好調により受注高は増加  
受注残高はアウトソーシングの売上計上に伴い減少

【ご参考】1Q(4-6月)の売上高、営業利益、四半期純利益の5カ年推移(単位:億円)



1

これより、2016年3月期第1四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。  
「決算の概要」資料の1ページ目をご覧ください。

当第1四半期の業績は、売上高は前年同期比+16億円増加の524億円、  
営業利益は前年同期比+3億円増益の7億円、純利益は前年同期比+4億円増益の9億円となりました。

システムサービスを中心にサービス収入が伸長したことに加え、  
人件費等の販管費の削減も進んでいることから、前年同期比で増収・増益となりました。

また、四半期純利益につきましても、営業利益の増加に加え有価証券売却益の計上もあり、  
大幅増益となっております。

次に受注高については、前期比+29億円増加の524億円となりました。

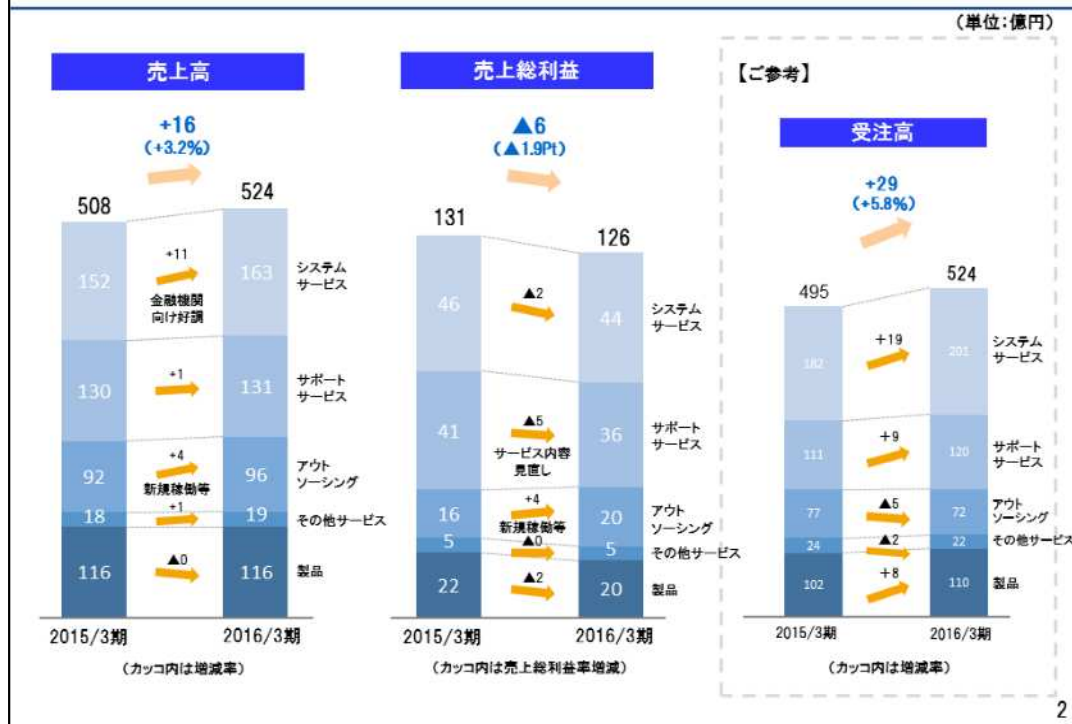
製造、電力・サービス分野を中心に提案活動は活発であり、  
更なる受注獲得に向け足元の環境は良好でございます。

また、受注残高につきましても、アウトソーシング案件の売上計上にともない、  
前期比▲44億円減少の2,102億円となっております。

なお、下段の5カ年推移で見ますと、14/3期の第1四半期に大型案件の計上があった反動から、  
前年15/3期の第1四半期は反動減がありましたが、当期はそういった特殊要因もなく、  
上期および通期計画の達成に向けて、ほぼ想定通りの立ち上がりとなっております。  
また、不採算の状況ですが、当四半期に、新たな不採算案件は発生しておりません。  
前期に追加引当を計上した大型の開発案件は、今年の秋の本番稼働に向け、  
7月より運用テスト工程に入っております。

## 2016年3月期 第1四半期 セグメント別の状況

Foresight in sight



2

続きまして、セグメント別の状況について説明いたします。  
資料の2ページをご覧ください。

システムサービスは、金融機関向けの開発を中心に堅調に推移し、増収となりましたが、今後の成長戦略であるデジタルビジネス関連でプラットフォームの開発費用▲4億円を前倒しで計上したことから減益となっております。

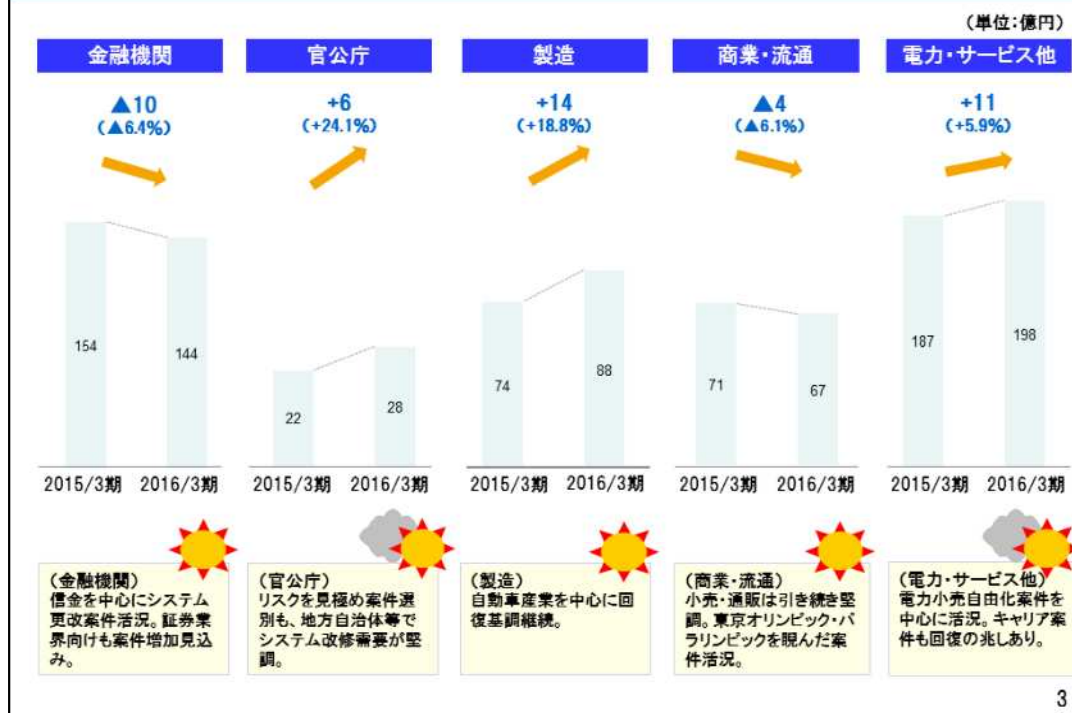
サポートサービスは、売上はほぼ前年同期並みとなりましたが、サービス内容の見直しに伴う利益率の低下により減益となっております。

アウトソーシングは、地銀勘定系システムS-BITSで、北國銀行が本年1月に稼働したことに加え、中小型案件が増加していることから、引き続き増収増益となっております。

製品は、利益率の高い大型案件が無く、ソフトウェアや賃貸の利益率が低下したことから、製品全体では減収減益となりましたが、ハードウェア販売に関しましては、減収ながら増益で利益率も改善しています。

## 2016年3月期 第1四半期 マーケット別売上高

Foresight in sight



続きまして、マーケット別の状況を説明いたします。

資料の3ページをご覧ください。

自動車産業向けを中心に回復基調が継続している製造と、  
電力小売自由化に向けた案件が活況である電力・サービスは増収となりました。  
信金を中心に更改案件が活況な金融や、  
小売・通販などが堅調な商業・流通においても、  
減収とはなっておりますが、受注におきましては環境は引き続き良好でございます。

## 2016年3月期 上期業績予想

Foresight in sight

上期の売上高、営業利益、当期純利益の予想は  
公表値(5月8日)から変更なし

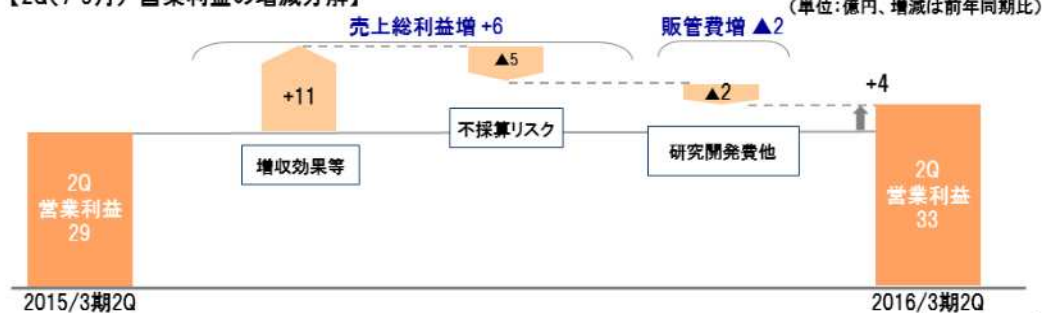
(単位:億円)

	2016年3月期 1Q実績		2016年3月期 2Q予想		2016年3月期 上期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前期比
売上高	524	+16	736	+25	1,260	+41
営業利益	7	+3	33	+4	40	+6
親会社株主に帰属する 当期純利益	9	+4	11	▲4	20	+0

\* 上期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

### 【2Q(7-9月) 営業利益の増減分解】

(単位:億円、増減は前年同期比)



4

業績予想についてご説明いたします。  
資料の4ページをご覧ください。

上期の、売上高、営業利益、当期純利益予想については、  
5月8日の公表値から変更ございません。

第1四半期はほぼ計画通りに進捗しており、  
引き続きシステムサービスやアウトソーシングサービスが堅調に推移するものと  
見込まれますことから、上期見通しについては5月8日公表の数値の通りと致します。

なお、不採算リスクとして第2四半期に5億円のリスクを見込んでおりますことを  
申し添えます。

## 中期経営計画(2015→2017)の進捗

Foresight in sight

▼ 今年度1Q実績  
▼ 前年度1Q実績



最後に、中期経営計画の進捗について説明いたします。  
資料の5ページをご覧ください。

DNPとの協業に関しては、当第1四半期で17億円の売上を計上しており、当期の目標に向け順調に推移しております。

ご参考までに財務面を下段に記載しております。  
当四半期でのフリー・キャッシュ・フローは78億円のポジティブ、自己資本比率は43%、ネットD/Eレシオは0.34倍となっており、財務体質は着実に改善しております。

以上をもちまして、2016年3月期第1四半期 決算概要の説明を終了いたします。

# UNISYS

**(注意)**

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。